

ブドウ「ルビーロマン」における環状はく皮処理の実施基準

1 背景・目的

環状はく皮は、樹の師管部をはぎ取り、葉の同化産物が地下部へ転流することを遮って、果実への分配を促す技術で、ブドウの着色向上に有効であるが、1粒重が小さくなることが報告されている。このため、「ルビーロマン」で処理を行うと、収穫時の1粒重が品質基準に満たない果房が増加する恐れがある。そこで、本品種における同処理の実施基準を作成する。

2 技術のポイント

- (1) 環状はく皮を処理する場合には、満開40日後における果粒横径が28mm以上の樹で実施する（図1、図2）。
- (2) 本基準は、砂土および壤土で適用できる（図1）。

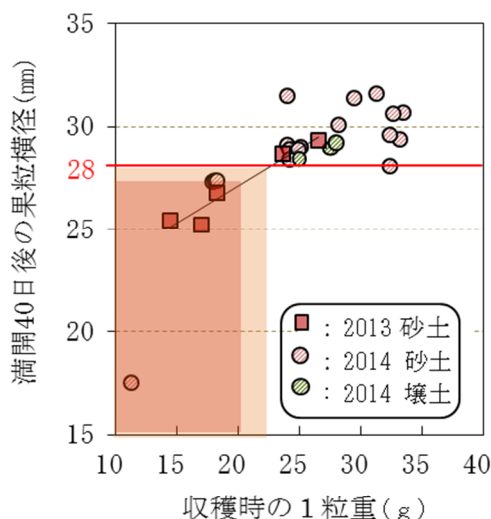
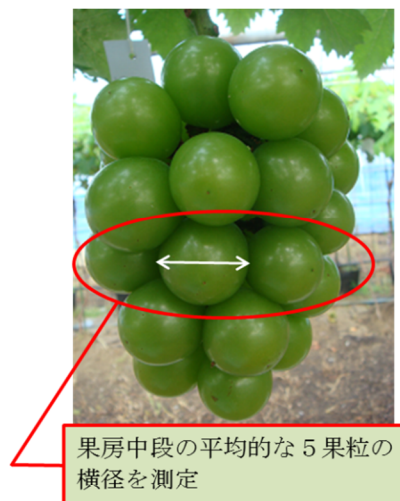


図1 収穫時の1粒重と満開40日後における果粒肥大の関係



果房中段の平均的な5果粒の横径を測定

図2 果粒横径の測定箇所

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 本基準は、満開40日後における環状はく皮処理の実施の目安となり、商品化率向上に有効である。
- (2) 本基準を適用して環状はく皮処理を実施する際には、適正着果につとめる。
- (3) 本基準は、処理1年目の樹で適用できる。

問合先：砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073
 担当者：玉村壮太・松田賢一